

平成28年度ヘルスプランぎふ21推進会議 地域・職域連携推進部会 議事概要

1 日時 平成29年1月30日(月) 午後1時30分～3時30分

2 場所 岐阜県庁7北1会議室

3 出席者 11人

	団体名	職名等	氏名	備考
1	岐阜大学大学院	准教授	井奈波 良一	欠席
2	岐阜県医師会	副会長	池田 久基	
3	岐阜県医師会	常務理事	堀部 廉	
4	岐阜県歯科医師会	専務理事	長瀬 好和	
5	岐阜県商工会議所連合会	専務理事	山田 英治	欠席
6	岐阜県商工会連合会	専務理事	酒井 忠	
7	岐阜産業保健総合支援センター	副所長	牧野 宏俊	
8	岐阜労働局労働基準部	健康安全課長	松原 川史	
9	ぎふ総合健診センター	専務理事	上村 博幸	部会長
10	岐阜県国民健康保険団体連合会	健康推進課主幹	矢野 万里子	代理
11	健康保険組合連合会岐阜連合会	常務理事	新藤 俊之	欠席
12	全国健康保険協会岐阜支部	企画総務部長	桜井 康弘	
13	岐阜県市町村保健活動推進協議会	保健師部会 副部会長	小洞 尚子	代理
14	岐阜県保健所長会	恵那保健所長	甲畑 俊郎	

4 事務局 7人

1	保健医療課	課長	小山 貴広	
2		保健企画監	山田 しのぶ	
3		主幹	吉村 隆子	
4		係長	井田 智子	
5		係長	清水 里子	
6		技術主査	横山 ひろみ	
7		主任技師	濱塚 久美	

5 部会内容

(1) 報告事項

①岐阜県の生活習慣病の現状

・特定保健指導率等の向上については、市町村単位で検討していく必要がある。

②圏域別地域・職域連携推進事業の実施状況

・連携事業の実施について有効な対策、成果が出る対策について報告されるとよい。

(2) 協議事項

①県民健康意識調査結果について

・岐阜県の喫煙率として健康意識調査のデータ結果の解析に注意すること。現在喫煙している人の喫煙率を下げるために活用していくとよい。

・県は様々な取り組みをやっているが、県民に伝わっていない。県の思いが浸透するよう所属の機関誌に調査結果を掲載する等協力したい。

・喫煙については、個人の力だけで禁煙するのは難しいので、圏域や県全体で禁煙の環

境整備が出来るとうい。

- ・労働行政も職業疾病の防止が中心であったが、現在は受動喫煙等の健康問題も重要になってきた。今後、保健分野との連携も一層進める必要がある。
- ・健（検）診を受診しなかった理由は、概ねどの調査も一緒の傾向にある。この結果を市町村に示し、対策を実施しないと状況は改善していかない。

## ②県民健康実態調査結果について

- ・データ数が多く市町村比較ができるようになると期待している。飛騨や東濃では喫煙率が高いなど、メタボや喫煙についての問題等も地域によって特徴があり、課題も違う。特定保健指導率とこれらの結果の因果関係についても今後明らかになっていくとよい。
- ・特定健診等の実施率の向上のため事業所の健診データの提供を受ける等の努力が必要。
- ・圏域によって地域性があり医療についても特徴がある。医療資源が多く日常的に受診できる地域があれば、医療資源が少なく健（検）診の受診率が高い地域もある。県は地域の特性をまとめて市町村に伝えていくとよい。

## ③第3次食育推進基本計画策定について

- ・食育では、孤食とか、みんなで食べるというメンタル面も入れつつ、肥満者の減少等のパーソナルの部分も入れて、岐阜県の計画としては食全体を網羅すればいいのではないか。
- ・国では「ゆっくりよくかんで食べる国民の割合を増やす」という目標が出されている。よく噛んで朝食を食べる子も噛まない子も、どちらも朝食を食べていることになる。食育は食べ方も大切なので、ライフステージごとの食育のすすめ方の中に、幼少期からよく噛んで食べるといった、食べ方、噛むことを加えて欲しい。
- ・これを県民運動として分かりやすく伝えていくことが必要ではないか。計画に使われている言葉が難しいという印象をもった。分かりやすいスローガンを挙げて、県民運動として実践を呼びかけるような取組をされてはどうか。
- ・長時間労働とか、深夜労働に携わる人の中には、欠食や偏った食事の傾向がある。コンビニなど今あるものを活用して、栄養のバランスのとれたものを食べながら欠食しないという方法を事業者の衛生管理者等に発信できればいいと思う。